

令和元年度 神埼市立神埼小学校 学校評価結果

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
『体を強く 心賢しく 学び合う せんだんの子』の育成	① 落ち着きのある学習環境をつくり、学力の確実な定着と学習意欲の向上を図る。 ② 校内外において基本的な生活習慣を身につけさせ、健康で明るい生活態度を養う。 ③ 自己肯定感を高め、「自分を好きに」「人を好きに」「学校が好きに」「ふるさとを好きに」なる児童の育成を図る。 ④ 校務の効率化を図り、教員の質の向上を目指す。

達成度 A：ほぼ達成できた  
 B：概ね達成できた  
 C：やや不十分である  
 D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 落ち着きのある学習環境をつくり、学力の確実な定着と学習意欲の向上を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・学習習慣の定着 ・学習状況調査、諸検査の活用	・「神埼市学習のきまり」5項目について80%以上を達成する。 ・各学年毎の家庭学習の目標時間を達成した子どもの割合が昨年度比3%アップを達成する。 ・学習状況調査12月実施において、十分達成到達目標比を、県平均をめざす。 ・2学期に実施する標準学力検査で、国語・算数において全国平均以上をめざす。	・立腰を行い気持ちを切り替えて学習を始めさせる。「学習のきまり」を理解させ、定着を図る。 ・家庭学習の手引きを活用し、家庭の協力も取りながら家庭学習の時間を増やす。「家庭学習がんばりカード」を活用し意欲を高める。 ・「授業づくりのステップ1・2・3」(県教育委員会作成)を活用し、「大切なポイント」を押さえた授業づくりを実践する。	B	・「学習の決まり」の徹底については、90%を達成することができた。 ・12月調査の結果においては5年生以外は、全国や県の平均か又はやや上回る結果であった。 ・家庭学習の目標時間達成の割合で昨年度比アップができなかった。	・家庭学習がんばり週間の内容を見直す。 ・学年で内容を統一した基礎基本の定着を図る時間を設定し底上げを図る。 ・マイプランの確実な実施。
	●志を高める教育	・「学び」の目的を持った学習活動の推進	・「なりたい自分に向けた取り組みができていく」と考える児童70%以上とする。 ・「めあて」と対応し「授業がわかる」と回答する児童85%以上とする。 ・授業改善に向け、全教員が学期に1回以上、公開授業を行う。	・児童の資質・能力の伸長の視点から学校行事や日々の授業づくりを考える。 ・授業改善に向けた授業公開週間を設定し、相互参観、ミニ研究会を実施する。	A	・教員のミニ研修会の実施ができた。自分の目標を持って学校生活を送っている児童90%、授業が分かる児童92%であった。	・教員の相互授業参観を更に活発にし、互いに学び合う風土の醸成を図る。
	○教職員の資質向上	・校内研究(国語科を中心とした)の推進	・国語科を中心に全ての教科について新学習指導要領の主旨に沿った授業改善を行う。 ・校内研究を通して授業力が向上した」と回答した職員の割合を80%以上とする。	・新学習指導要領の主旨について、研究主任、副主任を中心に、必要に応じて講師を招聘しながら、全体研修、授業研究会を通して共通理解を図る。 ・校内研究会の持ち方をワークショップ型にすることにより、校内研究への参画を高めるとともに、授業力の向上を図る。 ・各教科において相互授業参観を行う。	A	・校内研修を通して授業力が向上したと考える教職員が96%であった。校内研の持ち方を工夫し充実した研修が実施できた。 ・個々の教員の指導に差が見られることがある。	・校内の教員同士の実践紹介など校内講師による研修を更に活発にし、実践つなげる。 ・マイプランの確実な実施。
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の推進	・教職員の利活用能力の向上	・ICT機器を効果的に生かした授業ができる教職員の割合を90%以上とする。 ・教職員のICT機器利活用に関する能力の向上を目指す。 ・プログラミング教育についての考えを共通理解する。	・全職員が毎日1回以上、電子黒板等を活用した授業を行い、効果的な活用方法を模索する。 ・ICT支援員来校日に合わせてICT機器利活用のミニ研修会や長期休業中に研修会を実施する。 ・研修会の参加や講師を招聘しながら研修会、授業研究会を通して共通理解を図る。	A	・デジタル教科書や書画カメラ等を活用し、授業の工夫改善を行った職員が95%と目標を達成した。 ・プログラミング教育研修会の実施で共通理解から実践化を図る必要がある。	・プログラミング教育の各教科指導計画を作成する。 ・プログラミング教育を実践し、その実践をもって研修会を実施する。
	○図書館教育	・読書活動の推奨と積極的な図書館活用	・日常的に読書活動を推奨していく。 ・一人平均120冊以上の貸出冊数を達成し、一人平均貸出冊数で前年度を上回るようにする。	・朝の読書、読書週間、親子読書など、年間を通して読書への啓発を図る。 ・教科等との関連を図る読書活動を行う。 ・「読書50選」を改訂し、貸出を促進したり、みっば賞、読書チャンピオン表彰を行ったりして読書意欲を喚起する。	A	・年間の一人貸出冊数120冊は大きく上回り、平均貸出冊数も前年度を超えた。 ・よく本を読む子、読まない子の差が見られた。	・子ども達自身による読書活動推進活動を仕組む。(委員会活動)

② 校内外において基本的な生活習慣を身につけさせ、健康で明るい生活態度を養う。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめの問題への対応	・いじめ未然防止、早期発見・早期対応の体制づくり	・いじめの未然防止、早期発見・早期対応のため、アンケート調査を実施し児童の状況を把握する。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を積極的に活用し、教育相談体制を充実させ、「学校が楽しい」と回答した児童の割合を80%以上とする。	・毎月「いまのきもちカード」を児童を対象に行う。また、年間2回いじめアンケートを保護者と児童に対して実施しいじめの実態を早期に把握し対応する。 ・いじめ問題に関しては、必要に応じてSCやSSW等の外部人材を活用し、普段の教室の状況を観察したり、面談等を実施したりすることにより早期に対応する。	B	・学校が楽しいと回答する児童が92%であった。反面、楽しくないと回答する児童の減少が図れなかった。 ・SCやSSWと連携した相談体制が取れた。 ・早期対応できなかった事案があった。	・担任教師と児童との面談(お話週間)を年間計画に位置付け、児童理解と職員の情報共有を密にする組織作りを推進する。
	●健康・体づくり	・健康で強い体の育成 ・望ましい食生活習慣の定着	・健康な体の育成のために、週1回以上は学級みんなで遊ぶ日を設け、他の日も外遊びを奨励する。熱中症予防と頭部の保護のために、外遊びの際には児童に帽子を着用させる。 ・感染症による学級閉鎖等の措置を最小限に食い止める。	・外遊びの奨励や外での帽子の着用について放送で呼び掛け、定期的に見回りをして声かけをする。 ・感染症の情報を学校医・学校薬剤師等と連絡を密にとり、学校だけでなく、保健だよりなどで、情報を日頃から発信し、家庭への啓蒙、連携をさらに進める。	A	・学級外遊びの実施ができた。 ・適切な学級閉鎖の実施で感染が最小限に抑えられた。	・子ども達が主体となって健康増進、体力向上を図るような活動を仕組む。(委員会活動)
	○安全・安心で美しい学校	・危機管理意識の高揚 ・安全管理、安全指導の強化 ・校内環境の整備・美化	・危機管理マニュアルを周知することにより、教職員の危機管理意識を高める。 ・教職員自身の校内の安全に対する意識を高めるとともに、危険箇所の改善を図る。 ・交通事故を0、ヘルメット着用率を前年度比3%アップにする。 ・児童にきれいな学校にしようという心を育む。	・危機管理マニュアルの内容を全職員で確認し、危機を想定した避難訓練を年3回実施する。(火災、不審者、地震) ・毎月、施設設備の定期的な安全点検を行い、破損修理は可能な限りすまやかに行う。 ・月1回ヘルメットと防犯ブザーの所持と着用状況を調査し、学校だより等で保護者への啓発を図る。 ・無言清掃を全職員で取り組み、また下校前の整理整頓を徹底させる。	A	・危険箇所は速やかに改善できた。 ・下校前の整理整頓ができた。 ・ヘルメットの着用率95%で前年度3%アップはあと少しであった。	・危機管理マニュアルの周知徹底を継続する。 ・ヘルメット着用とともに防犯ブザー所持について、年間を通じて保護者、児童に啓発していく。

③ 自己肯定感を高め、「自分を好きに」「人を好きに」「学校が好きに」「ふるさとを好きに」なる児童の育成を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・道徳教育と体験活動の充実	・「神埼市4か条の誓い」と関連した授業に取り組んでいる等、心の教育に関するアンケート(保護者、教職員、児童)で90%以上を達成する。 ・年間を通じて「人権」について考えさせ「人権」をテーマとする集会を実施し、一層の啓発を行う。 ・異学年での体験活動を実施しできる体制を整える。	・「神埼市4か条の誓い」と関連した道徳の授業を学期に1回以上実施する。 ・授業と生活を関連させた指導により、人権意識の伸長を図り、人権・同和教育を深める。 ・縦割り活動での、異学年交流を通して、思いやる気持ちや協力する態度を育てる。	B	・保護者アンケートの心の教育に関する項目で95%の肯定回答を得た。 ・異学年での体験活動については、実施・内容ともに課題が残る。 ・配慮に欠けた言動をする子どもも見られる。	・道徳的価値について「考える道徳」の実践。 ・「感謝」「思いやり」を柱に縦割り活動(掃除・行事等)の取組を推進する。
	○特別支援教育	・個の特性に応じた指導・支援の充実	・個の特性に応じた指導・支援を充実を図る。	・特別に配慮を要する児童の状況を把握するため、子ども支援会議を月に1回実施し、職員の情報共有化を図るとともに、必要な児童については、個別の支援計画や指導計画を作成し、支援の充実を図る。 ・健康管理等、必要に応じて保護者との支援会議を開催し、保護者と共通理解を深めた指導を行う。 ・専門機関の巡回相談を計画的に実施する。	B	・個別の支援計画の作成はできているが、その効果的活用を図れなかった。 ・支援会議、ケース会議、巡回相談は適切に開催できた。	・実効性(活用性)のある簡潔な個別の支援計画の作成に心がけ、積極的な活用を推進する。
学校運営	○学校公開・情報発信	・学校の経営方針と重点目標の周知 ・教育活動の広報	・学校の方針や取り組み状況に対して保護者の周知度を90%以上とする。	・地域の組織と連携を取り、交流を深める場を設ける。 ・学校だよりの発行やHPの更新を行う。 ・各学年、校務分掌ごとに通信を発行する。 ・PTAと連携して教育講演会を企画することで、保護者の意識を高める。	A	・保護者アンケートの学校との連携項目で92%の肯定回答を得ることができた。 ・配信メールの適切な活用ができた。	・学校便りやこまめなHPの更新を行う。 ・学校行事、学年行事などへ保護者、地域の参画をこれまで以上に活発にし、連携の更なる醸成を図る。

④ 学校運営の改善

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	○学校事務	・事務の共同実施の活用 ・予算の効率的・効果的な執行	・事務の共同実施を活用し、他校と同じ進捗で事務処理を進める。 ・公費が税金で成り立っていることを全職員に周知し、全職員が経費削減意識を持って物品を使用するよう注意喚起する。 ・透明な会計処理を行うため、複数の目を通して処理を行う。	・メールを利用し、連携校間の業務推進に違いがないように協力していく。 ・購入依頼に対し、必要理由を確認する。また、光熱水費等の支出状況を職員に知らせる。 ・起案を行い、単体で会計処理を行わないようにし、事故が起こる温床を作らないようにする。	A	・事務の共同実施により職員の異動があっても業務に支障なく処理ができた。 ・若手職員対象に学校予算と学校運営に関する研修会を実施し、公費理解につなげることができた。	・学校事務に関する研修会を実施(継続)し、学校の組織的運営の更なる意識の向上を図る。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・勤務時間の管理 ・校務の効率化	・昨年度より月10時間の時間外勤務の削減を行う。 ・会議等の定時開始及び定時終了や会議時間の削減を行う。	・早い時期での行事、週案・日見通しをもちタイムマネジメントができるようにし、定時退勤日の確実な実施を行う。 ・パソコンを活用し事前提案やペーパーレスを推進し校務の効率化を図る。 ・水曜昼「学級タイム」を有効活用し、子どもと向き合う時間の確保をする。	B	・PCを活用した退勤管理、ペーパーレス会議など、効率化が図られた。 ・昨年度比10時間の時間外勤務削減は達成できなかった。昨年とほぼ同様。	・業務効率化を目指し、行事、校務の精選、整理を行う。 ・特定の教員に業務が偏ることがないようチームで対応する体制を整備する。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

例年通りといった慣例にとらわれない校務体制・意識を持つことに努め、工夫した校内研修・ミニ研修の設定で、職員の意思が同一方向に向かう学校体制が築かれてきたことが大きな成果であると考えている。この体制の継続を図りながら、教職員個々の指導の差を縮めていくことが重要と考える。また、教育活動について、児童の主体的な活動を推進し、教師が支援していく体制づくりを目指していく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目